

## 教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 22 日

所 属：教職課程

氏 名：小玉 敏也 職位：教授

役 職：教職課程主任

### I ティーチング・ポートフォリオ

#### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

担当する教育活動は、全学科の学生を対象とした教職課程及び環境教育を専攻する学部  
の学生と大学院の学生を対象とする。前者については、教員免許を取得する学生と教員を志  
望する学生の教職に関する基本的な教養と資質・能力を育成することに責任を負い、後者につ  
いては環境教育の現場で生きがいを持って働く社会人と、環境マインドを持った理科/農  
業教員の養成に責任を負っている。（令和5年度実績）

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
教育職概論	教職課程	必	1	15
教育法概論	教職課程	必	1	15
特別活動論	教職課程	必	3	29
総合的な学習の時間 の指導法	教職課程	必	3	29
教職実践演習	教職課程	必	4	16
教育実習指導 I・II	教職課程	必	4	16
卒業論文	環境科学科	選	4	1
卒業論文	動物応用科学科	必	3・4	2
科学の伝達	動物応用科学科	選	4	1
環境教育特論	環境保健学研究科	選	M1	6
科学者・研究者論	環境保健学研究科	選	M1	18
環境教育学特別実験	環境保健学研究科	必	D1	1
環境教育学特別演習	環境保健学研究科	必	D1	1

#### 2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

教育の理念は、環境マインドを持った教育人財を育成することにある。本学での授業を基  
盤として、在学中から一般社会に積極的に関与させ、論理的/批判的な思考力、体験活動  
を通じた実践力、現場往還型の研究能力を身に付けさせたい。その能力を育成するために、  
教職課程では教育実習を視野に入れた主体的・対話的な授業に取組み、研究室ではインターン  
やボランティアを通じた実践的な授業と事例研究に取り組んでいる。また、これらの取組み  
を通じて、社会人に必要な基本的な礼儀や態度等も教えてきた。

#### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

#### (1)教職課程授業での教育方法

4 学年で約 80 名の学生を対象としている。4 年次の教育実習を目標として、教員としての専門的能力（教科指導力・教育技術等）と社会人基礎力（対人関係能力・コミュニケーション能力等）を同時に育てることから、異質集団によるグループワーク、対話と合意形成の能力、人の心理を読み取る力、プレゼンテーション能力等を育成する教育方法を活用してきた。

#### (2)研究室での教育方法

学内での講義・演習と学外での体験実習・ボランティアを組み合わせた教育方法を活用してきた。講義・演習では正確に論文を読解できる能力と表現できる言語能力を育てる。そこで身につけた能力を、実習の現場で考え、生かし、体験しながら更に鍛えていきたい。この2種の教育活動を往還的に経験させながら、質的に高めるスパイラルな教育方法を活用している。

#### アクティブラーニングについての取組

- ① 授業中のグループワーク、ディスカッション、模擬授業。
- ② 授業時における学習指導案づくりと発表。
- ③ 卒論制作過程での協力企業・団体でのボランティア・インターン

#### ICT の教育への活用

- ① Google meet を活用したブレイクアウト・セッション
- ② Power Point を活用したプレゼンテーション
- ③ 学理・Azamoodle を活用した資料保管、課題提出、試験のフィードバック

#### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

##### ①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

- ・教員の講義だけでなく、映像の視聴、学生同士のディスカッション、レポートの作成など、多彩な方法を組み込んで授業を行なった。
- ・欠席者には、授業を録画してオンデマンド授業を実施してきた。

##### ②学生の理解度の把握（A）

- ・毎回のレポートで把握した。授業目標に到達したレポートは、次回の授業で紹介して学生間の波及効果をねらった。
- ・中間/期末レポートは、コメントを付して返却してきた。

##### ③学生の自学自習を促すための工夫（B）

- ・14 回中 2 回、指定教科書を事前・事後に読んでレポートを課していた。また、教育時事と関連させて授業をすることで、学生の意欲を喚起してきた。

##### ④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

- ・質問が出るような授業の工夫をしており、実際に丁寧に対応してきた。特に 1・2 年生は、メンタルヘルスに関して心配していたので、授業後に相談事に乗っていた。

##### ⑤双方向授業への工夫（A）

- ・対面式授業が原則であったが、学生を指名したり、ディスカッションの場を作ったり、学生から比較的好評だった。授業への集中力も高まった。
- ・基本的には、自分自身の手応えと学生による授業評価を踏まえて、常時改善を図っている。

本年度は、ようやく新型コロナ問題から抜け出ることができたが、引き続き受講者の心理

状態（メンタルヘルス・経済状態）を十分に勘案しながら授業を行ってきた。教員側は受講者の心理への配慮を基本的な姿勢として持ち続けるべきであると考えている。上記③については、学科の授業との両立を図るために、授業時間内で完結する学習を想定しているので予習・復習を強く促していない。その判断は、学生の学修生活全体の負担を考慮した場合、ベターな方策と考えている。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

## 5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

・本年度は、対面授業が全面実施できたので、学生のグループワークや議論する場面を多く設定することができた。そのスタイルは、学生の授業評価でも好評だったので、それをもっと磨き上げる方法で授業を創り上げてきた。

①の結果はどうでしたか。

・1年生と4年生からの評価は高かった。2～3年からは標準的な評価であった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

・次年度も、対面授業が基本となることから、学生の実態を十分に踏まえてアクティブな授業を実施していきたい。授業の内外でコミュニケーションをとって、学生理解につなげていきたい。それが、間接的に学生の能力向上にもつながると考えている。

## 6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

・「成績の向上」＝「資質・能力の育成」と理解した場合、教職課程の授業では、4年次の教育実習で、専門的な力量と社会人基礎力を十分に発揮できることを目標としているので、それに向けて関係教員と事務職員と協力しながら質の高い教育活動を行っていくことに尽きる。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

・例年、4年間履修してきた学生のほぼ全員が、教職免許を取得できていること。教育実習で、実習校の指導教員から適切な助言をいただき、学生の成長に繋がっていること。

・本年度は、教員採用試験に現役合格する学生が3名輩出できた。また、卒業後に臨時採用教員になったOB/OGから正式採用の知らせが毎年数件届いていること。

・本学大学院生から教員採用試験に合格した学生を輩出できる体制を整えられたこと。本学大学院の早期履修制度を使って進学する学生が増加したこと。

・学校の教員を選択しなくても、環境系 NPO や科学教育系の企業に就職する人材を輩出できたこと。

## 7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

・参加している。ただし、自身の職務や研究とかけ離れた理系固有の研修は欠席することもある。欠席した場合は、可能な限り動画を見て出席の報告をしている。

## 8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

- (1) 最新の教育時事や理論を反映した質の高い授業を実施していく。
- (2) 関連部局と協力して、教員採用試験の受験者と合格者を増加させたい。
- (3) 社会に出て、環境教育を仕事に活躍する学生を育てたい。

- (4) 出る杭プロジェクトに参加して、新たな教職課程の可能性を具現化したい。
- (5) 環境教育を専門とする研究者の卵を一人でも多く育てたい。

**9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ**

- ・ 學理における授業評価、課題・テストへの回答結果、最終レポート結果、アンケート等
- ・ シラバス（授業内容等）
- ・ キャンパスプラン（履修状況・成績評価）
- ・ 講義資料（パワーポイント・レジュメ等）
- ・ 卒論指導学生が提出した卒業論文要旨・卒業論文（卒論指導成果）

## 参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

(「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」(大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編)から引用)

(自ら作成するもの)

### 1. 授業に関するもの

シラバス, 小テスト, 宿題, レポート課題, 試験問題, 教材(配布資料, パワーポイント資料など)

### 2. 教育改善に関するもの

(教育に直接貢献する研究, FD プログラムなどへの参加記録, 教育の工夫を示すもの(複数年のシラバス等), 教育活動関連の補助金の獲得)

(他者から提供されるもの)

### 1. 学生から

授業評価データ, 授業に関するコメント(授業評価の自由記述やメールのやりとり等), 卒業生から授業や教育についてのコメント

### 2. 同僚から

授業参観の講評, 作成教材についての意見, 同僚のサポート実績

### 3. 大学/学会等から

教育に関する表彰, 教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類, カリキュラムやコースの設計などについての評価

(教育/学習の成果)

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化, 学生の小論文・報告書, 学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例, 特に優秀な学生についての記録, 指導学生の学会発表などの成果, 学生の進路選択への影響についての事実, 学生のレポートの改善の軌跡